

●漁況情報

- 2月19日、藤沢市漁協の漁業者は、今年初めてのチョウセンハマグリ漁を始めました。初日は200kg とまますの漁模様で、3月3日の節句に合わせて漁を集中的に行っていくと話していました。



貝桁の引揚げ



チョウセンハマグリ漁獲状況

- 3月に入りみうら漁協南下浦支所の金田湾地区では、みづきと桁びき網による黒ナマコ漁が始まりました。最近2年間は、コロナの影響で中国向けの需要が落ち込んだため、ナマコ漁は行われていませんでした。そのためか、口開けの3月1日には大型のナマコが多く、特に浅い海域を操業するみづき漁は好調で、漁協でとりきめている漁獲制限の100kg/隻の漁獲が見られました。2年間の休漁の効果でこれからも好漁が続くことを期待したいと思います。

●浜の話題

- 2月1日、小坪漁協の漁業者は、アワビ30mm（漁協3千、(公財)相模湾水産振興事業団3千）とサザエ20mm（漁協2万、(公財)相模湾水産振興事業団8千）種苗を放流しました。栽培協会が生産したクロアワビと当センター栽培推進部が生産したサザエ、共に良い種苗で、アワビは平箆で沈め自然移動、サザエは適地に船上から放流しました。当日は潮も良く、3mの浅海域にはアラメやカジメの点在も船上から確認できましたが、磯焼海域にはムラサキウニが多く分布していました。



アワビとサザエの種苗放流の様子

- 2月1日、小坪漁協所属 彦丸さんのみづき漁で、白い色をした赤ナマコが漁獲されました。腹側は通常の赤ナマコの色をしておりました。2月21日には、かず丸さんのヒラメ狙いの刺網漁で、ギンザメが活きた状態で掛かり、珍しかったので近隣の水族館に納品したそうです。



腹側は普通ですが背中が白い赤ナマコ



ヒラメの刺網に掛かったギンザメ

- 2月1日、東京大学生産技術研究所、平塚市、平塚市漁業協同組合等が参画している「平塚海洋エネルギー研究会」は、平塚漁港東防波堤の際に設置していた波力発電施設の実証試験が終了したため撤去を始めました。平塚で得られたデータは、今後建設される波の強い海域の発電能力を向上させる施設建設に生かされ、10年以内に商業化の実現を目指すとのことです。



波力発電施設（撤去前）



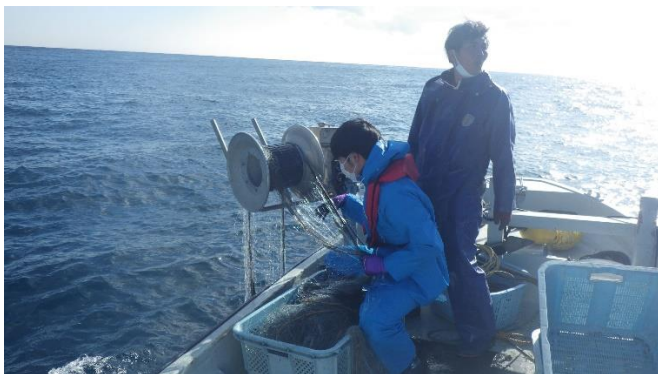
同左（撤去中）

- 2月15日、横浜市漁協柴支所の研究会では昨年12月に種付けしたアカモクの生長状況について栽培推進部研究員と普及員と共に調査しました。1ヶ月前に確認した時にはあまり生長していませんでしたが、今回の調査では、早いものは70cm以上に生長していました。横浜市漁協の周辺海域には、現状では、天然のアカモク資源はあるものの、今後、温暖化等の環境変化によって著しく減少することが考えられ、アカモク養殖の方法の開発により、アカモクの安定生産が期待できます。

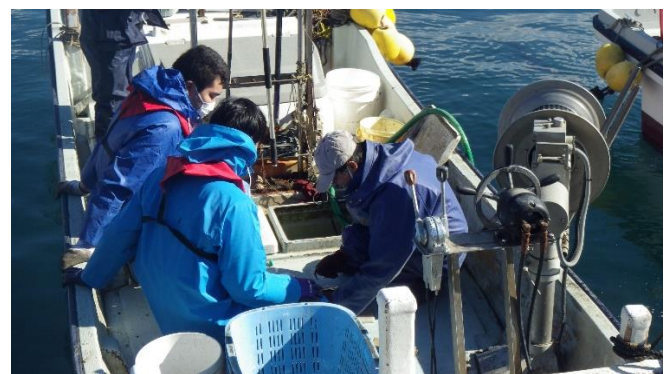


アカモクの成長具合を確認する研究員

- 2月16日、神奈川県漁業士会は、小田原市から委託された後継者育成事業の一環として、県立海洋科学高等学校の生徒を対象に体験漁業を実施しました。当日は、2年生2名が、小田原市江之浦地区の刺網漁船に乗船し、漁の体験をしました。参加した生徒には、将来漁業の担い手になってほしいと願っていました。



刺網漁業の体験の様子



神経締めを教わる生徒

- 2月17日、長井町漁協トラフグ延縄漁業者グループ福会は、かながわブランド販売促進支援事業を活用して「相模のとらふぐPRミニのぼり」を作成し、JA大型直売所「すかなごっそ」さかな館や、出荷先の料理店や魚屋に配布～掲示しております。2月24日には、福会会長 長助丸さんが、長井でトラフグ延縄漁が定着するまでの経緯について取材を受け、神奈川新聞に大きく掲載されました。出荷先の取扱店にも問合せがあり、反響も大きかったそうです。

神奈川新聞イマカナ web ページ

PRミニのぼり

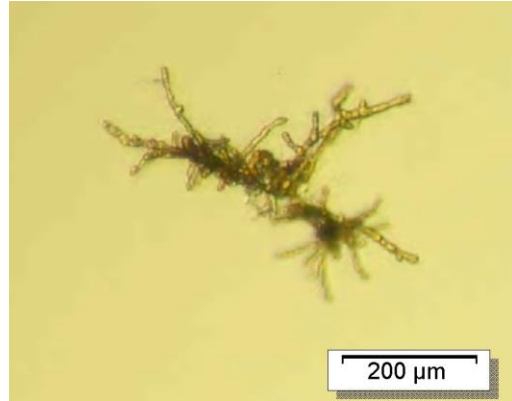
<https://imakana.kanaloco.jp/article/entry-462032.html>



- 2月18日、横須賀市東部漁協 鴨居支所の福本丸さんでは早ワカメの収穫が最盛期になるとともに、早々に種付けが行われました。通常、県内のワカメの種付けは3月下旬ごろから4月上旬に行われるのが一般的ですが、早ワカメの種付けは例年2月中旬に行われているとの事でした。この早ワカメは、メカブが通常のものよりも早くから収穫できるため、とても貴重な品種です。現在、水産技術センターでは、早ワカメのメカブを提供して頂き、貴重な品種のフリー配偶体を摘出中です。



早ワカメの種付けを行っている様子



早ワカメのフリー配偶体

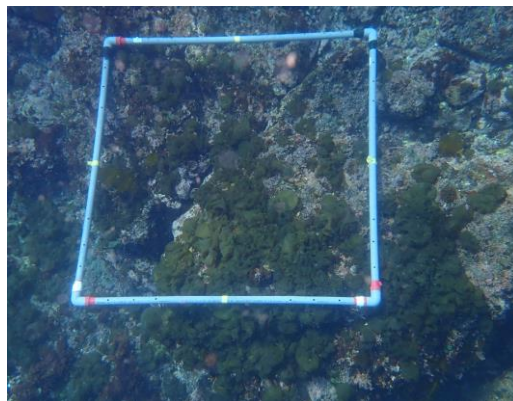
- 2月22日、逗子市観光協会主催の小坪のワカメ加工体験イベントが、小坪漁協所属 ヴェルデ丸さんのもとで開催されました。当日は、同観光協会が公募した19名の市民が参加し、朝採れ養殖ワカメを湯がき、天日干し作業を体験しました。参加者には、わかめの味噌汁が振る舞われ、生ワカメのお土産付きで、皆さまとても満足されたようです。



当日の様子

- 2月26日、長井町漁協所属 竜海丸さんの加工直売所に、テレビ東京「充電させてもらえませんか」の飛び込み取材がありました。当日は、タレントの出川哲郎と松坂大輔が電気バイクで立ち寄り、アブラボウズのあら汁を振る舞ったそうです。竜海丸さん曰く「リアルガチ」の飛び込み取材だったそうです。当日の様子は、4月9日18:30~テレビ東京 出川哲郎の「充電させてもらえませんか」でOA予定だそうです。 番組ホームページ <https://www.tv-tokyo.co.jp/degawacharging/>

- 3月3日、三和漁協城ヶ島支所と水産技術センターは城ヶ島周辺の三カ所で藻場のモニタリング調査を行いました。カジメが残っている場所ではアイゴやウニ駆除の効果もありカジメの繁茂が確認できましたが、かつてカジメ場があつてなくなってしまった場所では、ウニ駆除を実施しているにもかかわらずカジメの再生の兆しは確認できませんでした。両者はわずか1.8 km程度しか離れていませんがカジメの繁茂状況には大きな違いが見られました。水温などの環境の違いがカジメの生育に影響しているとも考えられますが、どうも一度なくなってしまったカジメ場を再生させるには食害生物の駆除に加えてさらなる工夫が必要なようです。



食害生物の駆除によりカジメが残っている場所(左) 駆除にもかかわらずカジメが再生しない場所(右)